

第6章

この章では、マスターチューニングや各種コントローラーの設定、MIDIに関する各種の設定、カードやフロッピーディスクとのデータのやりとりなど、ユーティリティの機能を説明します。

ユーティリティの機能

1. システムユーティリティ.....	250
2. MIDIユーティリティ	262
3. カードユーティリティ.....	270
4. ディスクユーティリティ.....	277
5. サンプルユーティリティ.....	295
6. MDRユーティリティ	303
7. マスターコントロール.....	309

1. システムユーティリティ

システムユーティリティでは、システム全体に関する次のような設定を行います。

システムユーティリティ (SYSTEM UTILITY)			DP 800
No.	項 目	内 容	
01	Master Tuning	システム全体の音源のチューニングを設定します。	DP 801
02	Velocity Set	鍵盤を弾いた強さに対応するベロシティの各種設定を行います。	DP 802
03	Controllers	FOOT SW 端子に接続されたフットスイッチ、モジュレーションホイール2でコントロールするMIDIコントロールナンバーやコントローラーホールドのオン/オフを設定します。	DP 803
04	Edit Confirm	各操作中に表示される確認メッセージ「Are you sure ?」の表示の有無を選択します。	DP 804
05	Greeting Message	電源を入れたときに表示されるメッセージを変更します。	DP 805
06	Memory Allocate	本体内の RAMをウェーブフォームサンプル波形用とMDR 用に配分します。	DP 820
07	Switch Lock	パネルキーを全て無効にします。	—

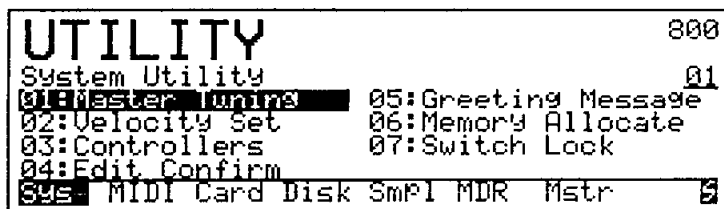
システムユーティリティの機能は、次の操作で始めます。

手 順

① [UTILITY] を押します

▼ 次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティの画面が表示された場合には、**[F1]**(Sys) を押してください。



② 機能を選択します

▼ 選択した01～07の各機能のページが表示されます。

マスターチューニング		DP 801
[UTILITY] → F1 (Sys) → 01:Master Tuning		
機能	システム全体の音源のチューニングを設定します。	
設定	Note Shift	-64 ~ +63
	Fine Tuning	-64 ~ +63

MASTER TUNING	801
Note Shift = +0	
Fine Tuning = +0	
Note Fine	

Note Shift
Fine Tuning

解 説

- ノートシフト(Note Shift)は半音単位で音程を上下します。
- ファインチューニング(Fine Tuning) はステップ 1.171875 cents 単位 (1cent は 1/100半音) で音程を上下します。
- この機能では、音源から出力される全ボイス、全マルチの音程が変更されます。
特定のボイスだけの音程を変更したい場合は、ELEMENT NOTE SHIFT (**F5** 54) や、ELEMENT DETUNE (**F5** 54) の機能を使います。

注 意

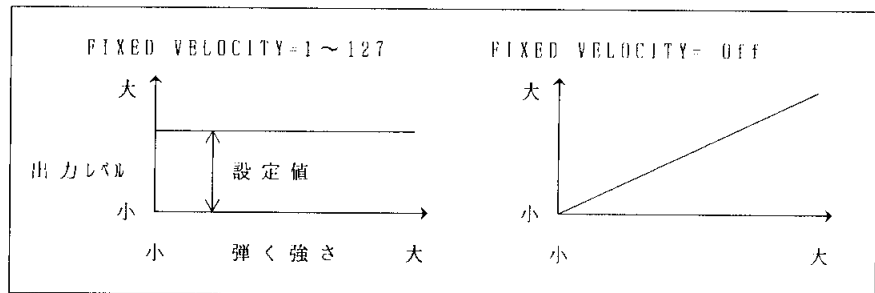
- この機能で変更される音程は、本体内部の音源の出力だけです。MIDI OUT からの出力には、何も変更は加えられません。

1. システムユーティリティー

ベロシティーセット		DP 802	VELOCITY SET	802
[UTILITY] → [F1] (Sys) → 02:Velocity Set			Fixed Velocity = Off Velocity Curve = 0 (normal)	
機能	鍵盤を弾いた強さに対応するベロシティーの各種設定を行います。			
設定	Fixed Velocity	off, 1~127		
	Velocity Curve	0 ~ 7		
			Fix Curv	

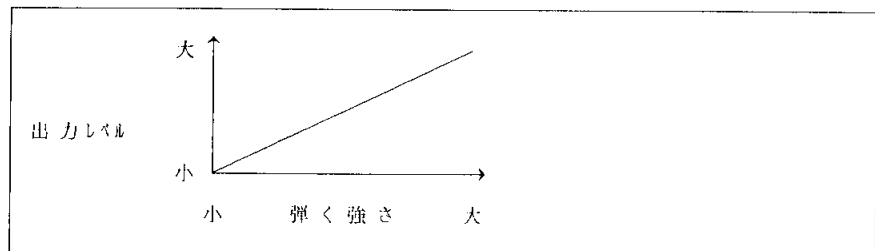
Fixed Velocity

- 解 説**
- フィックスドベロシティー(Fixed Velocity)が、1 ~ 127のときは、どんな強さで鍵盤を弾いても、指定の数値のベロシティーで演奏情報が出力されます。off のときは、鍵盤を弾いた強さによって、出力レベルが変化します。



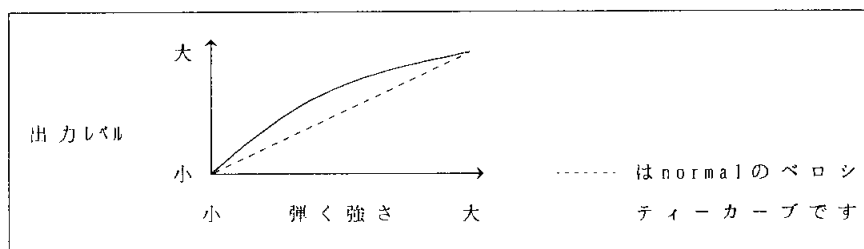
Velocity Curve

- ベロシティーカーブ(Velocity Curve)では、フィックスドベロシティーがoff に設定されているとき、鍵盤を弾く強さと、出力レベルとの対応を 0~7 の8種類のベロシティーカーブから選択します。
- DX7 IIなどのシンセサイザーと同様のベロシティーカーブです。



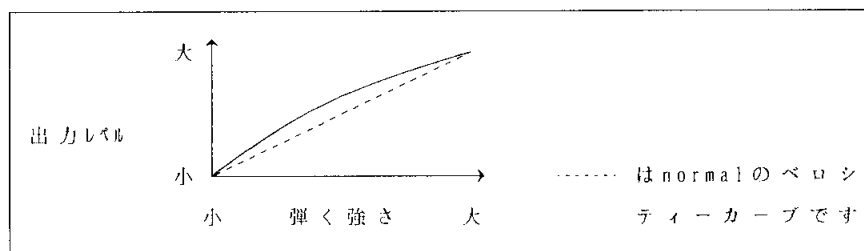
1:soft-1

- 全体に音が出やすく設定されているベロシティーカーブです。キータッチの弱い方や、キーボードの初心者の方に向いています。



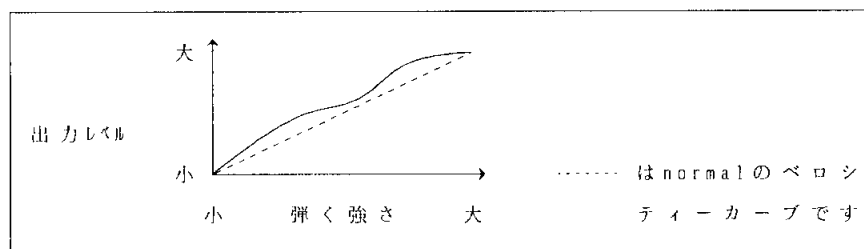
2:soft-2

- 全体に音が出やすく設定されているベロシティーカーブです。1:Soft-1よりは、多少normalに近いベロシティーカーブです。



3:easy

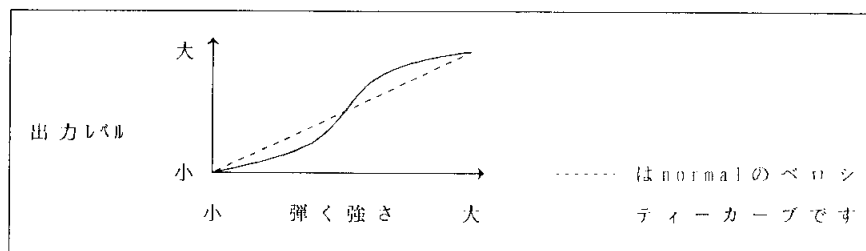
- 全体に比較的音は出やすくなっていますが、通常の演奏でよく使う中間部で傾きがゆるやかで、音量が安定するベロシティーカーブです。



1. システムユーティリティー

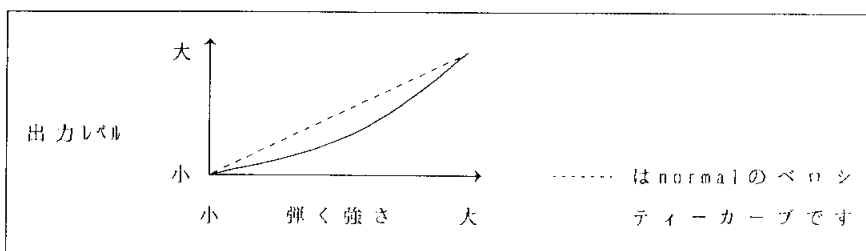
4:wide

- キータッチの弱い部分では、音を押さえ、強い部分では音が出やすくなっています。ダイナミックレンジが広く感じられるカーブです。



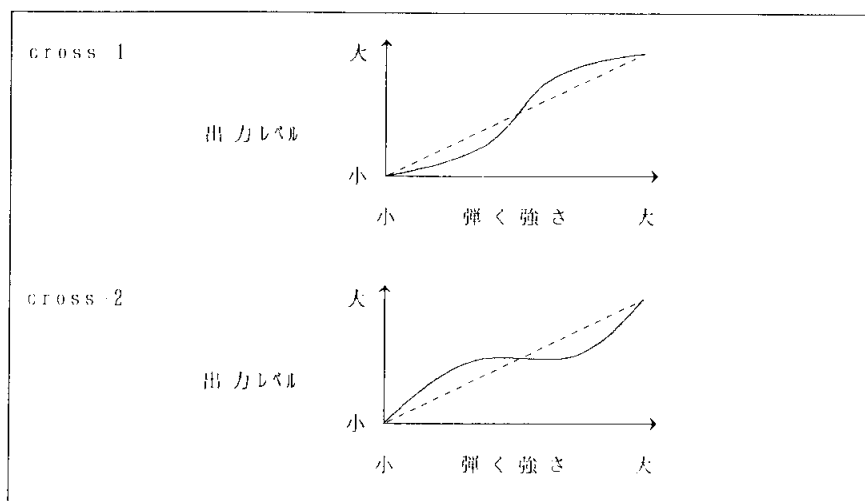
5:hard

- 全体に音が出にくく設定されているベロシティーカーブです。キータッチの強い方に向いています。



6:cross-1 7:cross-2

- Velocity Sens(ベロシティーセンシティブィティ) のマイナス値を使用したエレメントと、プラス値を使用したエレメントを用いて、ベロシティークロスフェードを行うときにこのカーブを使います。



注 意

- フィックスドベロシティーが、1～127 に設定されているときは、ベロシティーカーブの設定は無効です。
- 鍵盤を弾く強さが、音量、音質に影響しないように作られたボイスに対して、フィックスドベロシティーの設定をoff にしても、その効果はありません。
- 「鍵盤を弾く強さ」は、内部的には鍵盤を押した瞬間の速さで認識しています。

1. システムユーティリティー

コントローラーズ DP 803			<div> <div>CONTROLLERS 803</div> <div> <div>Controller</div> <div>MIDI Control Number</div> </div> <div> <div>Assignable Foot Sw</div> <div>065 Portamento Switch</div> </div> <div> <div>Assignable Wheel</div> <div>013 Non-assigned no.</div> </div> <div> <div>Controller Hold</div> <div>= off</div> </div> <div> <div>Foot Whl Hold</div> <div></div> </div> </div>	
[UTILITY] → F1 (Sys) → 03:Controllers				
機能	FOOT SW 端子に接続されたフットスイッチ、モジュレーションホイール2でコントロールするMIDIコントロールナンバーを設定します。			
設定	Assignable Foot Sw	0 ~ 120		
	Assignable Wheel	0 ~ 120		
	Controller Hold	on, off		

コントロールナンバー

解 説

- 背面 FOOT SW端子に接続されたフットスイッチを切り換えたとき、またはモジュレーションホイール2を動かしたときに出力されるMIDI信号のコントロールナンバーを設定します。
- コントロールナンバーには、MIDI規格で、次のような機能が割り当てられています。

No.	可変コントローラー	No.	on/offコントローラー
001, 033	MODULATION WHEEL	064	HOLD 1
002, 034	BREATH CONTROLLER	065	PORTAMENTO
004, 036	FOOT CONTROLLER	066	(SOSTENUTE)
005, 037	(PORTAMENTO TIME)	067	(SOFT PEDAL)
006, 038	DATA ENTRY	069	(HOLD 2)
007, 039	MAIN VOLUME	091	(EFFECT 1 DEPTH)
008, 040	BALANCE CONTROL	092	(EFFECT 2 DEPTH)
010, 042	PANPOT	093	(EFFECT 3 DEPTH)
011, 043	EXPRESSION	094	(EFFECT 4 DEPTH)
		095	(EFFECT 5 DEPTH)

- 例えば、「ASSIGNABLE WHEEL」の設定を 007に設定すれば、モジュレーションホイール2を使って、ボリュームを調節できるようになります。

コントローラーホールド

- また、前記の表以外のコントロールナンバーを指定し、ボイスの各種コントロールをそのコントロールナンバーに一致させることで、さまざまなデータのコントロールが可能になります。
- フットスイッチは、on/offコントローラーに、モジュレーションホイール2は、可変コントローラーに設定します。

- コントローラーホールドは、ボイスやマルチを切り換えたとき、直前のコントローラーの状態を、新しいボイス、マルチで引き継ぐか、リセットするかを選択する機能です。

onを選択すると、直前のコントローラーの状態を引き継ぎます。
例えば、モジュレーションホイールを最大に回したまま、ボイスを切り換えると、モジュレーションホイールの効果が最大のまま、新しいボイスの音が出ます。

off を選択すると、コントローラーの状態をリセットします。
例えば、モジュレーションホイールを最大に回したまま、ボイスを切り換えると、切り換えた時点で、モジュレーションホイールの効果は最小(0)にリセットされ、新しいボイスの音が出ます。
ただし、この場合、モジュレーションホイールの実際の位置は、一番奥に回された状態になっていますので、少しでもモジュレーションホイールを動かすと、突然、モジュレーションホイールの効果が効き始めます。

注 意

- 本機では、VolumeおよびHold以外は、ボイスでアサインされた場合にコントロールが可能です。
MIDI規格の割り当てにしたがって、アサインしてもコントロールはできません。
- コントロールナンバー000 と032 は、特殊な切り換え信号用にリザーブされています。選択することはできません。(off の設定になります)

1. システムユーティリティー

エディットコンファーム		DP 804
[UTILITY] → F1 (Sys) → 04:Edit Confirm		
機 能	各操作中に表示される確認メッセージ 「Are you sure ?」の表示の有無を選択します。	
設 定	Edit Confirm	on, off

EDIT CONFIRM

804

Edit Confirm = **on**

解 説

- この設定を off にしておくと、さまざまな操作過程で表示される確認のメッセージ「Are you sure ?」の表示を省略することができます。

注 意

- 「Are you sure ?」は、一度実行してしまうと元に戻れない場合など、確認の必要があるときに表示されるものです。したがって、操作に慣れるまでは、on のままで操作することをおすすめします。

グリーティングメッセージ			DP 805
[UTILITY] → F1 (Sys) → 05:Greeting Message			
機能	電源を入れたときに表示されるメッセージを変更します。		
設定	Line 1, Line 2	最大20文字×2行	

GREETING MESSAGE805

Line 1 = [Create YOUR sound !]
Line 2 = [...I'm ready]

ClrUpperLowr

解 説

- 電源を入れたときに表示されるグリーティングメッセージを、20文字×2行で入力します。（文字を入力する方法について：➡基礎編：52）

注 意

- 全てスペースが入力されている場合は、電源を入れた時に何も表示されません。

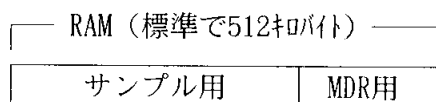
メモリアロケート		OP 820
[UTILITY] → F1 (Sys) → 06:Memory Allocate		
機能	本体内の RAMをウェーブフォームサンプル波形用とMDR 用に配分します。	
設定	MDR Memory	0 ~ 512 KByte

MEMORY ALLOCATE		820
All Memory = 1024 KByte		
Sample	= 896 K	Used = 824 K
MDR	= 128 K	Used = 0 K
Init		Go

解 説

- ウェーブフォームのサンプル波形と、MDRのデータは、本体内の同じ RAM を使います。

このメモリアロケートの機能では、標準で 512キロバイトの容量を持つ RAMのメモリーをサンプル波形用とMDR 用に配分、分割します。



メモリアロケートは、この境界線の位置を設定する作業です

また、別売の増設メモリーボード(SYEMB05)を装着してある場合は、1ボードにつき、512キロバイトずつ RAMの容量が増えます。

状態	メモリー容量
本体のみ	512 キロバイト
1 枚増設	1024 キロバイト
2 枚増設	1536 キロバイト

状態	メモリー容量
3 枚増設	2048 キロバイト
4 枚増設	2560 キロバイト
5 枚増設	3072 キロバイト

- MDR 機能を全く使わない場合は、全メモリーをサンプルに使うことができます。

同様にサンプル波形を全く使わない場合は、全メモリーを MDRに使うこともできます。

ただし、MDR として使用できる最大メモリーは 512キロバイトです。したがって、増設メモリーボードを装着してある場合でも、512 キロバイト以上のメモリーを MDRに割り当てることはできません。

1. システムユーティリティー

[F4](Init)

- サンプル波形用／MDR 用の配分を設定し、[F8](Go)、[+1/YES]を押すと分割が実行されます。

- [F4](Init)を押し、[+1/YES]を押すと、RAM全体をサンプルに使用する設定にイニシャライズを実行し、現在入っているデータを全て消去します。
- 新しい増設メモリーボードを装着した場合は、最初に必ずこのイニシャライズを実行してください。
イニシャライズを行うことで、本体がメモリーボードの増設を認識し、使用可能な状態となります。
ただし、このとき、すでに本体内の RAM、またはすでに取り付けられている増設メモリーボードのデータはすべて消去されてしまいます。
あらかじめ、ディスクにデータを保存しておいてください。

注 意

- 配分の設定変更により、サンプル、MDRのデータが入りきらなくなる場合は、変更前の状態に戻ります。
必要のないデータを削除した後、設定をなおしてください。
- 増設メモリーボードを装着する場合は、必ずスロットの番号順に装着してください。
装着方法は、増設メモリーボード(SYEMB05)の取扱説明書をご参照ください。

スイッチロック		<div>SWITCH LOCK</div> <div>ARE YOU SURE ?</div> <div><Yes or No></div>
[UTILITY] → F1 (Sys) → 07:Switch Lock		
機 能	全てのパネルキーを無効にします。	
設 定	なし	

解 説

- この機能を実行すると、パネル上の全キーの操作を無効とし、音色やモードの切り換えが起こらないようにします。
本機のパネル上で書きものをするときなど、パネルスイッチに触れても現在の設定が変わってほしくない場合などにご利用ください。
- スイッチロックの状態を解除するには、**SHIFT**を押しながら、**EXIT**を押します。
また、電源をオフにすることでも、スイッチロックが解除されます。

2. MIDIユーティリティー

MIDIユーティリティーでは、MIDI信号の送受信に関する次のような設定を行います。

MIDIユーティリティー(MIDI UTILITY)			DP 806
No.	項 目	内 容	
01	Setting	MIDI信号の送受信のチャンネルや、ローカルのon/off、プログラムチェンジ信号の送受信、バルクデータの扱いなどについて設定します。	DP 807
02	Bulk Dump	バルクデータを送信します。	DP 809

MIDIユーティリティーの機能は、次の操作で始めます。

① [UTILITY] を押します

▼ 次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティーの画面が表示された場合には、[F2](MIDI)を押してください。

UTILITY	806
MIDI Utility	01
01:Setting	
02: Bulk Dump	
Sys MIDI Card Disk SmPl MDR Mstr	8

② 機能を選択します

▼ 選択した01～02の各機能のページが表示されます。

セッティング

OP 807

[UTILITY] → [F2](Midi) → 01:Setting

機 能 MIDI信号の送受信のチャンネルや、ローカルのon/off、バルクデータの扱いなどについて設定します。

設 定	Kbd Trans Ch	1 ~ 16
	Voice Recv Ch	1 ~ 16, omn
	Local on/off	on, off
	Note on/off	all, odd, even
	Program Change	off, on
	Device Number	off, 1~16, all
	Bulk Protect	off, on
	Pattern Prot	off, on

SETTING

807

```

Kbd Trans Ch = [F2] Program Change = on
Voice Recv Ch = omn Device Number = all
Local on/off = on Bulk Protect = on
Note on/off = all Pattern Prot = on

```

```

[F2] R-Ch Lcal Note Prog Dev Bulk Ptrn

```

解 説

Kbd Trans Ch

- キーボードトランスミットチャンネル(Kbd Trans Ch)は、鍵盤やコントローラーを使った演奏情報を送信するチャンネルの設定です。
- マルチプレイモードのときは、設定した16個のボイスのうち、鍵盤で音を出したいボイスのチャンネルに、このトランスミットチャンネルを合わせます。
また、外部の音源などを本機の鍵盤で鳴らすとき、このトランスミットチャンネルと、外部の機器の受信チャンネルを合わせます。

また、ボイスプレイモードやマルチプレイモード時に、**[SHIFT]**を押しながらプログラムチェンジキー 1~16を押すことで、トランスミットチャンネルを切り換えることもできます。

2. MIDIユーティリティー

Voice Recv Ch

- ボイスレシーブチャンネル(Voice Recv Ch) は、ボイスモードでの本機の演奏情報の受信チャンネルの設定です。
この受信チャンネルと、外部機器の送信チャンネルを一致させておくことで、外部のキーボードやシーケンサーなどで本機のボイスを鳴らすことができます。
- 設定を omn にしておく と、どのチャンネルで送られた情報も受信し、音を出します。ただし、マルチプレイモード使用時には、各ボイスはそれぞれ 1～16 のチャンネルで送られた演奏情報で音を出します。
このとき、このボイスレシーブチャンネルの設定はプログラムチェンジ信号やエフェクトコントロール信号の扱いに関係します。(▶ 265)

Local on/off

- ローカルオン／オフ(Local on/off) は、本体鍵盤部と本体音源部の関係の設定です。
- on のときは、鍵盤部と音源部は内部的にMIDIで接続されます。
off のときは、鍵盤部と音源部が切り離され、音源部はMIDI IN 端子から入力されたMIDI信号にのみ対応して音を出します。このとき、本体鍵盤の演奏情報は MIDI OUT 端子から送信されます。
ただし、内蔵シーケンサーの演奏は、この設定に関わらず音源に伝えられます。

Note on/off

- ノートオン／オフ(Note on/off) は、本機の音源部が、MIDIのノートオン情報（鍵盤を弾いたという情報）を受信したとき、どのように発音するかという設定です。
- 通常は、all の設定で、この状態では、受信したすべてのノートオン情報に対して音を出します。
odd に設定すると、受信したノートオン情報のうち、奇数のノートナンバーの音だけを出します。even に設定すると、受信したノートオン情報のうち、偶数のノートナンバーの音だけを出します。
- この機能は、2 台の本機をMIDIで接続し、1 台を odd に、もう 1 台を even に設定することで、擬似的に最大同時発音数を 2 倍にするときに使います。
- この機能は、本体鍵盤のノート情報出力には影響しません。

Program Change

off

- プログラムチェンジ信号の送信、受信に関する設定を、off, onのいずれかから選択します。

- Mode=offのときは、バンクセレクトやプログラムチェンジ信号を受信しても無視します。
バンクセレクトやプログラムチェンジ信号の送信も行いません。

on

- バンクセレクトやプログラムチェンジの信号を送信、受信します。
- 外部機器から、バンクセレクト信号を受信すると、本機の設定を次のように切り換えます。

バンクセレクト信号	切り換えの内容	
1	ボイスプレイモード	インターナルボイス
2	ボイスプレイモード	カードボイス
3	ボイスプレイモード	プリセット1ボイス
6	ボイスプレイモード	プリセット2ボイス
1 7	マルチプレイモード	インターナルマルチ
1 8	マルチプレイモード	カードマルチ
1 9	マルチプレイモード	プリセットマルチ
3 3 ※	マルチプレイモード	インターナルボイス
3 4 ※	マルチプレイモード	カードボイス
3 5 ※	マルチプレイモード	プリセット1ボイス
3 8 ※	マルチプレイモード	プリセット2ボイス

※ マルチプレイモードのまま、バンクセレクト信号を受信したチャンネルのボイスのバンク（メモリ）のみを切り換えます。

- 外部機器から、プログラムチェンジ信号を受信すると、本機の設定を次のように切り換えます。

ボイスプレイモードのとき

01～64のプログラムチェンジ信号を受信すると

……メモリはそのまま、ボイス番号を1～64に切り換えます。

65以降のプログラムチェンジ信号を受信すると

……プログラムチェンジ信号を無視します。

マルチプレイモードのとき

01～64のプログラムチェンジ信号を受信すると

……プログラムチェンジ信号を受信したチャンネルのボイスのボイス番号を1～64に切り換えます。

65～80のプログラムチェンジ信号を受信すると

……メモリはそのまま、マルチ番号を1～16に切り換えます。

2. MIDIユーティリティー

- 本機でボイスまたはマルチを切り換えると、そのバンクセレクト、プログラムチェンジ信号を送信します。
送信する信号については、前ページの解説と同様です。

参考 —— バンクセレクトについて

バンクセレクト信号は、新しくMIDIで定義された規格です。
この規格により、これまでプログラムチェンジ信号 0~127 で限定されてきた128 音色を超える音色の切り換えが可能となりました。

バンクセレクト信号は、コントロールナンバー0 と 32 のコントロールチェンジ信号を使って行います。

本機の場合、次のような設定でバンクセレクトを行います。

コントロールチェンジ 1	コントロールチェンジ 2	バンクセレクト信号
000, 000	032, 000	1
000, 000	032, 001	2
000, 000	032, 002	3
000, 000	032, 005	6
000, 000	032, 016	1 7
000, 000	032, 017	1 8
000, 000	032, 018	1 9
000, 000	032, 032	3 3
000, 000	032, 033	3 4
000, 000	032, 034	3 5
000, 000	032, 037	3 8

※上の表からもわかるように、コントロールチェンジ2のデータに1を足したものが バンクセレクト信号となっています。

また、コントロールチェンジ1のデータバイトが 001の場合、バンクセレクト信号は 129から始まります。同様に、コントロールチェンジ1のデータバイトが 127の場合、バンクセレクト信号は 16257から始まり、最大16384 までのバンクセレクト信号を出力できるわけです。

本機からバンクセレクト信号を送信しても、受信側の機器にバンクセレクト機能が付いていない場合には、バンクセレクトは行われません。

Device Number

- デバイスナンバー(Device Number) は、外部機器とエクスクルーシブメッセージの送受信を行うときに使用する番号です。送信側の機器と受信側の機器のデバイスナンバーが合っていないと、エクスクルーシブメッセージを送受信することはできません。all に設定しておくとも1～16の全ナンバーに対応します。
- バルクデータの送受信を行わないときは、off に設定しておきます。

Bulk Protect

- バルクプロテクト(Bulk Protect)は、バルクデータの受信を防止する設定です。
- onのときは、外部からバルクデータが送信されても、受信しないで本体内部のメモリーを保護します。
- off のときは、外部からバルクデータが送信されるとすぐに受信を開始し、メモリーを書き換えます。
また、シーケンサーのバルクデータを受信した場合は、現在本体で選択されている番号のソングとして受信します。また、外部機器からシーケンサーデータのダンプリクエストがあった場合には、現在本体で選択されているソングを送信します。

Pattern Prot

- パターンプロテクト(Pattern Prot)は、外部機器からソングのバルクデータが送信されたとき、パターンのデータを受け取るか、無視するかを選択です。
本機では、最大10曲のソングを扱うことができますが、パターンは01～99の各パターンを共通で使用します。
したがって、外部機器からパターン付きのソングデータを受信してしまうと、別のソングのドラムパートが変更されてしまいます。これを防ぐ場合に、onを選択します。

注 意

- バルクデータの送受信を行うときは、必ず双方のデバイスナンバーを合わせてください。
- プログラムチェンジが on に設定されているとき、マルチエディットモード以外では、プログラムチェンジ信号は、設定されているキーボードトランスミットチャンネル (▶263) で送信されます。

2. MIDIユーティリティー

バルクダンプ		DP 809	<div>BULK DUMP8090101:Vo & Mlt 05:64 Voice 09:Sequencer02:Syn Setup 06:16 Multi 10:1Song & Ptn03:Pan 07:1 Voice 11:Seq Setup04:Mcrtuning 08:1 Multi 12:NSEQGo</div>
[UTILITY] → (F2)(Midi) → 02: Bulk Dump			
機能	バルクデータを送信します。		
設定	送信データ	01 ~12	

解 説

- 次の12種類の中からデータの種別を選択し、バルクデータを送信します。

No.	データ種別	データ内容
01	Vo & Mlt	ボイスとマルチの全データ
02	Syn Setup	シンセサイザー部のセットアップデータ
03	Pan	ダイナミックパンのデータ
04	Mcrtuning	マイクロチューニングのデータ
05	64 Voice	インターナル64ボイスのデータ
06	16 Multi	インターナル16マルチのデータ
07	1 Voice	指定の1ボイスのデータ
08	1 Multi	指定の1マルチのデータ
09	Sequencer	シーケンサーの1ソングとパターンデータ およびシーケンサーのセットアップデータ
10	1Song & Ptn	シーケンサーの1ソングとパターンデータ
11	Seq Setup	シーケンサーのセットアップのデータ
12	NSEQ	N-SEQ フォーマットでのシーケンサーデータ出力

N Seq フォーマットは、QX5 FDなどのシーケンサーで使用するデータ形式です。

手 順

① データを選択します

- ・ 01～12の中から、送信するデータを選択します。
- ・ 07「1 Voice」、08「1 Multi」、09「Sequencer」、10「1Song & Ptn」、12の「NSEQ」を選択したときは、[F8](Dir) を押し、送信するデータを指定します。

② [F8]を押します

- ▼ 送信が開始され、「Now transmitting !」と表示されます。
「Completed !」の表示になったら、送信の完了です。

注 意

- バルクデータを送受信する機器は、デバイスナンバー (➡ 267) が一致していなければなりません。
- サンプルバルクデータの送受信は、サンプルユーティリティー (➡ 295)で行います。

3. カードユーティリティ

カードユーティリティでは、カードを使ったデータのやりとりの設定を行います。

カードユーティリティ(CARD UTILITY)			OP 812
No.	項目	内 容	
01	Load From Data Card	データカードのデータを、インターナルにロードします。	OP 814
02	Save to Data Card	シンセサイザー部の全インターナルデータをデータカードにセーブします。	OP 813
03	Format Data Card	データカードをフォーマットします。	OP 815
04	Load From Wave Card	ウェイブフォームカードの全データをインターナルにロードします。	OP 824

カードユーティリティの機能は、次の操作で始めます。

① [UTILITY] を押します

▼次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティの画面が表示された場合には、**[F3]**(Card)を押してください。

```

UTILITY (DATA CARD TYPE=SY99) 812
Card Utility                                01
01: Load From Data Card
02: Save To Data Card
03: Format Data Card
04: Load From Wave Card
Sys MIDI Card Disk Smp1 MDR Mstr          5
  
```

② 機能を選択します

▼選択した01~04の各機能のページが表示されます。

注 意

- データカードは別売のMCD64(64K バイトタイプ)を使用してください。
MCD32 (32K バイトタイプ)は使用できません。
- 新品のデータカードにデータをセーブするときは、あらかじめそのカードをフォーマットしておかなければなりません。
- シーケンサーのデータをカードにセーブすることはできません。

ロードデータカード		DP 814	<div>LOAD DATA CARD (DATA CARD TYPE=SY99) 814</div> <div>Data = <u>synthe all</u></div> <div>Go</div>
[UTILITY] → F3 (Card) → 01:Load From Data Card			
機能	データカードのデータを、インターナルにロードします。		
設定	Data	synthe all multi&voice(pan,mct) synthe setup	

解 説

- データカードにセーブされたシンセサイザーのデータをインターナルにロードします。
- このとき、データの種類を、次の中から選択することができます。
 - ・ synthe all 全データ
 - ・ multi&voice(pan,mct) システムセットアップデータ以外の全データ
 - ・ synthe setup システムセットアップのデータ
- この機能で、SY77のデータカードをロードすることもできます。この場合には、SY77とSY99の異なる設定項目に関して、次のような変換が行われます。
 - ・ エフェクトの設定
SY77上でのオリジナル音に一番近い音になるように、自動的に変換します。
 - ・ AWM2のウェーブフォームの設定
SY77上でのオリジナル音で使用しているウェーブフォームと同じ（または近い）ウェーブフォームを使います。（このときウェーブフォーム番号は変化することがあります）
 - ・ synthe all, synthe setupのロードの際、システムメモリアロケートの値はロードされません。
 - ・ マスターコントロールデータは、synthe setupに含まれます。ただしマスターコントローラセレクトのデータはロードされません。

3. カードユーティリティー

① データを選択します

② **[FB]**(Go)を押します

③ **[+1/YES]**を押します

手 順

- ・ロードするデータの種類を選択します。
- ▼「Are you sure ?」と表示されます。
- ・ロードを中止したい場合は、**[EXIT]**キーを押します。
- ▼ロードが実行されます。

注 意

- ロードを実行すると、元々インターナルに入っていたシンセサイザーのデータはすべて失われます。十分注意してください。
- SY77のデータを保存したカード（市販のROMカードも含む）では、「synthe all」以外は選択できません。（カードのデータタイプは画面の最上行に表示されます）

セーブデータカード		DP 813	<div>SAVE DATA CARD (DATA CARD TYPE=SY99) 813</div> <div>All (synthe) data will be saved</div> <div>Go</div>
[UTILITY] → [F3] (Card)→ 02:Save To Data Card			
機 能	シンセサイザーのインターナル全データをデータカードにセーブします。		
設 定	なし		

解 説

- インターナルに入っているシンセサイザーの全データ（セットアップデータ、システムデータ、パンデータ、マイクロチューニングデータ、ボイスデータ、マルチデータ）をカードにセーブします。
- この機能で、SY77タイプ（SY77タイプでフォーマットされたデータカード）のデータカードにデータをセーブすることもできます。
この場合には、SY77とSY99の異なる設定項目に関して、次のような変換が行われます。
 - ・エフェクトの設定
すべてエフェクトモードoff の状態になります。
 - ・AWM2のウェーブフォームの設定
SY77上に、オリジナルに近いウェーブフォームがある場合は、そのウェーブフォームを使用する設定に変換します。
ない場合は、65:Triのウェーブフォームを使用します。

手 順

- ① **[F8]**(Go)を押します
- ② **[+1/YES]**を押します

- ▼ 「Are you sure ?」と表示されます。
- ・セーブを中止したい場合は、**[EXIT]**キーを押します。
- ▼ セーブが実行されます。

3. カードユーティリティー

注 意

- セーブするデータカードは、あらかじめフォーマット (▶ 275) されていなければなりません。
- カードの上部には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオンになっているときは、データをセーブすることができません。つまようじのようなもので、オフに切り換えてください。
- セーブを実行すると、元々そのカードに入っていたデータはすべて失われます。十分注意してください。

3. カードユーティリティー

フォーマットデータカード		DP 815
[UTILITY] → F3 (Card)→ 03:Format Data Card		
機 能	カードをフォーマットします。	
設 定	Format to	SY99, SY77

FORMAT DATA CARD		815
Current Data Card Type = SY99 Format to SY99		
Card data will be erased !		
SY99 SY77	Go	

フォーマット

- ① フォーマットの種類を選択します
- ② **F8**(Go)を押します
- ③ [+1/YES]を押します

解 説

- データカードをフォーマット（初期化）します。
フォーマットとは、カード内のメモリーにデータを書き込むことができるようにする機能です。ちょうど白い紙に、データを記入するための罫線を引くような作業です。
- 新しくカードを購入したときや、他の機種で使っていたカードを本機用に流用するときなどに、この操作を行ってください。
- 本機では、SY77用のフォーマットも行うことができます。

手 順

- ・ **F1**(SY99)、または**F2**(SY77)を選択します。
- ▼ 「Are you sure ?」と表示されます。
- ・ フォーマットを中止したい場合は、**EXIT**キーを押します。
- ▼ フォーマットが実行されます。

注 意

- フォーマットを実行すると、カードに入っていたデータは全て消去されます。

3. カードユーティリティー

ロードウェイブカード		DP 824
[UTILITY] → [F3] (Card)→04:Load From Wave Card		
機 能	ウェイブフォームカードの全データをインターナルにロードします。	
設 定	なし	

LOAD WAVE CARD	824
All data will be loaded	
Go	

解 説

- ウェイブフォームカードの全データをインターナルウェイブフォームとしてロードします。

手 順

- ① **[F8]**(Go)を押します
- ② **[+1/YES]**を押します

▼ 「Are you sure ?」と表示されます。

- ・ ロードを中止したい場合は、**[EXIT]**キーを押します。
- ▼ ロードが実行されます。

注 意

- ロードを実行すると、ウェイブフォーム、サンプルデータともに、自動的に空き番号をさがして、その番号にロードされます。
- メモリアロケート (➡ 259) の設定によっては、ウェイブフォームデータをロードできない場合があります。この場合は、サンプル用のメモリー容量を十分に大きくとってください。
(カードの容量は、インターナルRAM の容量と同じです)
- ウェイブフォームカードのデータは、違法コピーを防止するため、ディスクにセーブしたり、サンプルダンプができないようになっています。また、市販のサンプルデータディスクの中にも、コピーができないようになっているものもあります。
これらの、サンプルデータをサンプルディレクトリで表示すると、サンプルネームの前に、鍵のマークが表示されます。

4. ディスクユーティリティ

ディスクユーティリティでは、フロッピーディスクを使ったデータのやりとりを行います。

ディスクユーティリティ(DISK UTILITY)			DP 816
No.	項目	内容	
01	Disk Status	ディスクの容量の状態を表示します。	—
02	Load From Disk	ディスクのデータをロードします。	DP 817
03	Save To Disk	データをディスクにセーブします。	—
04	Format Disk	ディスクをフォーマットします。	DP 818
05	Backup Disk	バックアップディスクを作成します。	DP 819
06	Rename File	ファイルの名前を変更します。	—
07	Delete File	ファイルを削除します。	—
08	Disk Save Type	ディスクセーブタイプを設定します。	DP 825

手 順

① [UTILITY] を押します

▼次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティの画面が表示された場合には、**[F4]**(Disk)を押してください。

```

UTILITY (DISK SAVE TYPE=SY99) 816
Disk Utility                                01
01:Disk Status                               05:Backup Disk
02:Load From Disk                           06:Rename File
03:Save To Disk                             07>Delete File
04:Format Disk                             08:Disk Save Type
SYS MIDI Card Disk Smp1 MDR Mstr          9

```

② 機能を選択します

▼選択した01～08の各機能のページが表示されます。

注 意

- 新品のディスクにデータをセーブするときは、あらかじめそのディスクをフォーマットしておかなければなりません。
- 使用できるフロッピーディスクは、3.5 インチ 2DDタイプのものです。これ以外のタイプのフロッピーディスクは使用しないでください。

4. ディスクユーティリティー

ディスクステータス			<div>DISK STATUS</div> <div>Total = 9 Files All = 2 Files Used = 550K bytes Syn all = 0 Files Free = 163K bytes Seq all = 4 Files Sample = 1 Files Card = 1 Files MDR = 0 Files Misc. = 1 Files</div>
[UTILITY] → [F4] (Disk) → 01:Disk Status			
機 能	ディスクの容量の状態を表示します。		
設 定	なし		

解 説

- ディスクにセーブされているファイルの数と、ディスクの空き容量を表示する機能です。

手 順

- ① ディスクをドライブにセットします
- ② 01:Disk Statusを選択します

- ▼ 画面に各種データのファイル数、使用している容量(Used)、未使用の容量(Free)が表示されます。
- 各種データ表示の意味は、次の通りです。

Total すべてのファイル数
All All Dataでセーブしたファイル
Syn All Synthesizer All でセーブしたファイル
Seq All Sequencer All でセーブしたファイル
Sample 1 Sampleでセーブしたファイル
Card Cardでセーブしたファイル
MDR MDR でセーブしたファイル
Misc. その他のファイル

- ③ **[EXIT]**を押します

- ▼ 元の表示に戻ります。

ロードディスク		OP 817	<div>LOAD FROM DISK817</div> <div>01: All Data 06: Pan 11: 1 Voice 01 02: Synth All 07: McrTuning 12: 1 Multi 03: Seq All 08: Seq Setup 13: 1 Song 04: Syn Setup 09: Song & Ptn 14: Card 05: Vc & Mlt 10: Other seq</div>
[UTILITY] → [F4] (Disk) → 02:Load From Disk			
機能	ディスクのデータをロードします。		
設定	データ選択	01 ~ 14	

解 説

- 次の14種類のデータの中から、データ種類を選択してロードします。

No.	データ種類	データ内容
01	All Data	全データ
02	Synth All	シンセサイザー部の全データ
03	Seq All	シーケンサー部の全データ
04	Syn Setup	シンセサイザー部システムセットアップデータ
05	Vc & Mlt	全ボイス、全マルチのデータ
06	Pan	パンの全データ
07	McrTuning	マイクロチューニングの全データ
08	Seq Setup	シーケンサー部のセットアップデータ
09	Song & Ptn	1ソングのデータ、パターンのデータ
10	Other seq	本機以外の機種種のシーケンサーデータ
11	1 Voice	1ボイスのデータ
12	1 Multi	1マルチのデータ
13	1 Song	1ソングのデータ、パターンのデータ
14	Card	「Card」でセーブされたデータ

- この機能で、SY77のディスクをロードすることもできます。
このとき、SY77とSY99の異なるボイス設定項目に関して、次のような変換が行われます。

- ・エフェクトの設定

SY77上でのオリジナル音に一番近い音になるように、自動的に変換します。

- ・AWM2のウェーブフォームの設定

SY77上でのオリジナル音で使用しているウェーブフォームと同じ（または近い）ウェーブフォームを使います。（このときウェーブフォーム番号は変化することがあります）

4. ディスクユーティリティー

解 説

- 04～09, 11～12のデータは、「All Data」でセーブしたデータからのみ読み込むことができます。
Synthesizer All やSequencer All でセーブしたデータから、部分的な各データをロードすることはできません。
- 13:1 Song は、「1 Song」でセーブしたデータのみを読み込みます。
All Dataでセーブしたデータから、1 ソング分のデータを読み込む場合は、09:Song & Pattern を使います。
- 10:Other seqでは、KSEQ, ESEQ, NSEQ形式のシーケンスデータおよびスタンダードMIDIファイル(format 0,1)をロードすることができます。

手 順

① ディスクをドライブに
セットします

② データを選択します

- ・ 番号をテンキーで入力するか、カーソルキーを使ってカーソルを移動し、**[ENTER]**を押します。

▼ロードするファイルを選択する表示に変わります。

LOAD FROM DISK		
Data Type = All Data		
01:Queen	06:-----	01
02:Night	07:-----	
03:-----	08:-----	
04:-----	09:-----	
05:-----	10:-----	
▲ ▼		Go

- ・ 手順②で選択したデータをロードできるファイルが表示されます。
- ・ 1 画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、**[F2]** (▼) を、前の画面を表示させるときは**[F1]** (▲) を押します。あるいは、テンキーで1～99を入力すると、その数字のある画面が表示されます。

③ ファイルを選択します

- ・ 手順②で01～08, 14 のデータを選択した場合は、ここでファイルを選択し、**[F8]** (Go) を押し、手順④に進みます。
- ・ 手順②で 09:Song & Ptnを選択した場合は、ロードするファイルを選択した後、**[F8]** (Dir) を押します。
表示されたソングの一覧の中からロードしたいソングを選択した後、**[F4]** (Dst) を押し、ロード先のソング番号を指定します。
続いて**[F8]** (Go) を押し、パターンをロードするかどうか、**[+1/YES]** または **[-1/NO]** で選択して、手順④に進みます。

④ [+1/YES]を押します

- 手順②で10:0ther seqを選択した場合は、ロードするファイルを選択した後、**[F4]**(Dst) を押し、ロード先のソング番号を指定します。続いて**[F8]**(Go)を押し、手順④に進みます。
- 手順②で11:1 Voiceまたは12:1 Multiのデータを選択した場合は、ロードするファイルを選択した後、**[F8]**(Dir) を押します。
表示されたボイス、マルチの一覧の中からロードしたいデータを選択した後、**[F4]**(Dst) を押し、ロード先の番号を指定します。(ボイスのバンク切替には、[A] ~ [D] のキーを使います。
続いて**[F8]**(Go)を押し、手順④に進みます。
- 手順②で13:1 Song のデータを選択した場合は、ロードするファイルを選択した後、**[F4]**(Dst) を押し、ロード先のソング番号を指定します。続いて**[F8]**(Go)を押し、パターンをロードするかどうか、[+1/YES]または[-1/NO] で選択して、手順④に進みます。

- ロードを中止したい場合は、**[EXIT]**を押します。
- ▼ロードが実行されます。

注 意

- 「11:1 Voice」でセーブ時にバンクA～Cにあったボイスは、バンクA～Cにしかロードできません。またバンクDにあったボイス(ドラムセットボイスを含む)は、バンクDにしかロードできません。
- データによっては、複数枚のディスクにセーブされている場合があります。この場合には、メッセージにしたがってディスクのセット、イジェクトを行ってください。
- ロードを実行すると、本体内の各種データが、ディスク内のデータで置き換えられてしまいます。十分注意してください。
- SY77タイプのディスクから、01:All Data, 03:Seq All を選択してデータをロードする場合、ディスク中のソングデータは、ソング1にロードされ、2～10のソングは消去されます。
- シーケンサーデータの中で、トランスミットチャンネルは、「Song」のデータに含まれます。このため、08:Seq Setupでロードしても、アウトプットチャンネルのデータは読み込まれません。
- メモリアロケートや、マスターコントローラーセレクトのデータは、シンセサイザーのセットアップデータに含まれますが、01:All Data, 04:Syn Setupを選択したとき以外は、ロードされません。
- ソングのネクストソング、ネクストモードのデータは、01:All Data, 03:Seq Allを使ってロードしたときにだけ、読み込まれます。
- 10:0ther Seqでは、ディスクに入っている全てのファイルの名前が表示されますが、シーケンサーデータ以外はロードすることができません。

4. ディスクユーティリティー

■ 別の機種のスーケンスデータのロードについて

本機では次のように、別の機器のスーケンスデータを読み込むことができます。

- ・SY77のスーケンスデータ

01:All Data, 03:Seq All, 09:Song & Patn, 10:Other seq
13:1Song を使ってロードできます。

- ・QX3

- ・QX5FD

- ・V50(SEQ でセーブしたデータ)

- ・C1 “スーケンス” (トラック 1 のみ) のスーケンスデータ

- ・スタンダードMIDIファイル(format 0, 1)

10:Other seqを使ってロードできます。

ただし、QX5FD のマクロデータなど各機種固有のデータなどは読み込めないものがあります。

参考) 各種データ形式の違いによる読み込めるデータ内容

ESEQ……演奏データ+小節データ+テンポデータ

NSEQ……演奏データ

KSEQ……演奏データ+テンポデータ

■ スタンダードMIDIファイルとの互換について

異なったシーケンサーの間でも、簡単にソングデータのやりとりを可能にするために考えられたのが、「スタンダードMIDIファイル」という規格です。

スタンダードMIDIファイルという共通のファイル形式を用いることによって、あるシーケンサーから別のシーケンサーにソングデータの変換を行うことができます。

現在、多くのソフトウェアメーカー、ハードウェアメーカーからスタンダードMIDIファイルを入出力できるソフト、ハードが提供されています。

本機で扱うことのできるスタンダードMIDIファイルは、次の2種類です。

format:0 トラック数は1つで、その中に複数のMIDIチャンネルのデータが混在する形式

format:1 トラック数は無制限で、各トラックに複数のMIDIチャンネルのデータが混在する形式

データロード時は、format:0、format:1 のいずれのデータでもロードできます。

データセーブ時は、format:0にのみ対応します。

本機では、「Other Seq Load」を使って、次の条件を満たすスタンダードMIDIファイルがロードできます。

- ・下記のいずれかのディスク上のMIDIファイル(3.5インチ2DD)
 - ・ IBM-PCでフォーマットされたディスク
 - ・ NEC PC-9801 でフォーマットされたディスク
 - ・ Apple Macintosh でフォーマットされたディスク
- ・ format:0、format:1のスタンダードMIDIファイル
- ・ 基準クロックが、MIDIクロックのファイル
- ・ 分解能が四分96の倍数であるファイル

注意) Apple Macintosh の場合には、Apple File Exchange などのユーティリティーを使って、フロッピーをIBM-PCタイプのフォーマットにしてください。

また、Macintosh II, SE, Plusなど、スーパードライブを搭載していない機種をお使いの場合には、'Dayna File'などの装置を使って、この作業を行ってください。

4. ディスクユーティリティ

format:0の場合には、MIDIチャンネル=トラック番号としてロードされます。（このときMIDIチャンネル1～15が有効で、トラック16は無視されます）

また、テンポチェンジなどの情報は、トラック1に入ります。

format:1の場合には、コンダクタトラック（テンポチェンジなどの情報が含まれるトラック）がある場合には、それがトラック1に入り、それ以降、各トラックが前に詰めてロードされます。

ロード後、各トラックのトランスミットチャンネルを正しく合わせてください。（1トラックマルチチャンネルでセーブされているデータは、format:1でロードした場合、同一MIDIチャンネルと認識します。そのため、再現性を高めるために、format:0でデータのやりとりを行うことをおすすめします）

また、format:0、format:1ともに、エクスクルーシブデータはロードされません。

本機では、「Save MIDI File」を使って、スタンダードMIDIファイルをセーブすることができます。

セーブできるディスクは、ロードのときと同じです。

format:0の形式で、MIDIチャンネル=トラック番号としてセーブされます。エクスクルーシブディスクはセーブできません。

この機能でセーブしたディスクをMacintoshで使う場合は、ResEditなどのユーティリティを使って、ファイルのタイプをMidiに変更してください。

また、セーブされたファイルの拡張子は、X01～X99となります。ソフトウェアによっては、拡張子.MIDとしないとスタンダードMIDIファイルとして認識しないものもありますので、このような場合は、パソコンなどを使ってリネームしてください。

※ MacintoshはApple社の登録商標です。

※ DaynaFileはDayna Communication Inc.の登録商標です。

4. ディスクユーティリティー

セーブディスク			<div>SAVE TO DISK (DISK SAVE TYPE=SY99) 163K bytes Free 01: All Data 06: MIDI File 01 02: Synthesizer All 07: Card 03: Sequencer All 04: 1 Song 05: Song ESEQ</div>
[UTILITY] → [F4] (Disk) → 03:Save To Disk			
機 能	データをディスクにセーブします。		
設 定	データ選択	01 ~ 07	

解 説

- 次の7種類のデータのいずれかをディスクにセーブします。

No.	データ種類	データ内容
01	All Data	全データ
02	Synthesizer All	シンセサイザー部の全データ（システムセットアップデータを含む）
03	Sequencer All	シーケンサー部の全データ
04	1 Song	任意の1ソングをセーブします。
05	Song ESEQ	ソングデータをESEQフォーマットでセーブします
06	MIDI File	スタンダードMIDIファイル(format 0)の形式でセーブします
07	Card	データカードの全データをセーブします

※ ESEQフォーマットはQX3で使用しているシーケンスデータのフォーマットです。

また、04:1 Songでは、KSEQというフォーマットでセーブします。

- 画面右上には、ディスクのセーブタイプが表示されます。
- 選択したデータによっては、ディスク1枚に入りきらない場合も出てきます。（特に増設メモリーボード使用時）
このような場合は、メッセージが表示されますので、指示にしたがって、ディスクのセット、イジェクトを行ってください。
- この機能で、SY77用のデータディスクを作成することもできます。
この場合は、あらかじめディスクセーブタイプ（**[F4]** 294）の機能でSY77を選択しておいてください。
ただし、このとき、SY77とSY99の異なる設定項目に関して、次のような変換が行われます。

4. ディスクユーティリティー

・エフェクトの設定

すべてエフェクトモードoff の状態になります。

・AWM2のウェーブフォームの設定

SY77上に、オリジナルに近いウェーブフォームがある場合は、そのウェーブフォームを使用する設定に変換します。

ない場合は、65:Triのウェーブフォームを使用します。

手 順

① ディスクをドライブに
セットします

② データを選択します

・番号をテンキーで入力するか、カーソルキーを使って、カーソルを移動し、**[ENTER]**を押します。

▼01~03, 07 を選択した場合は、セーブするファイルを選択する表示に変わります。

```
SAVE TO DISK (DISK SAVE TYPE=SY99)
Data Type = All Data
01:Queen          06:- NEW -*      01
02:Night          07:- NEW -*
03:- NEW -*       08:- NEW -*
04:- NEW -*       09:- NEW -*
05:- NEW -*       10:- NEW -*
▲ ▼ Name Go
```

・「-NEW-*」と表示されている場合は、何もデータが入っていません。このまま名前を付けずにセーブすると、* が消え「-NEW- 」としてセーブされますので、注意してください。

・1画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、**[F2]** (▼) を、前の画面を表示させるときは**[F1]** (▲) を押します。あるいは、テンキーで1 ~99を入力すると、その数字のある画面が表示されます。

▼04~06を選択した場合は、セーブするソングを選択する画面に変わります。

```
SAVE TO DISK
Save 1 Song Source
01:Cat           06: ----- 01
02: -----     07: -----
03: -----     08: -----
04: -----     09: -----
05: -----     10: -----
Src Dst
```

③ ファイルを選択します

- ・この場合には、セーブしたいソングを選択した後、**[F4]**(Dst) を押して、手順③に進みます。
- ・新しくデータをセーブするときは、「-NEW-*」と表示されているファイルを選択します。
- ・すでにデータのセーブされているファイルを選択すると、新しいデータで元のデータを書き換えます。(この場合は、書き換えを確認するメッセージが表示されますので、**[+1/YES]**を押します)
- ・「08:Card」を選択した場合は、64KByte タイプと 32Kバイトタイプの選択を、**[F4]**、**[F5]**を使って行ってください。
(この機能を使えば、カードを使用する別機器のカードデータのバックアップをディスクに取ることも可能です)

④ **[F7]**(Name)を押します

- ▼ファイル名を入力する表示に変わります。
- ・ファイル名は、データに付ける名前です。

SAVE TO DISK

↓

File Name = [- NEW -]

Clr Uppr **Lower** Go

⑤ ファイル名を入力します

- ・ファイル名は、8文字までの文字で付けます。(文字を入力する方法について：➡基礎編：52)

⑥ **[F8]**(Go)を押します

- ▼「Are you sure ?」と表示されます。

⑦ **[+1/YES]**を押します

- ・セーブを中止したい場合は、**[-1/NO]**を押します。
- ▼これでセーブが開始します。

4. ディスクユーティリティー

注 意

- セーブするディスクは、あらかじめフォーマット (▶ 289) されていなければなりません。
- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン (窓が開いている状態) になっているときは、データをセーブすることができません。
- すでにデータのセーブされている番地を選択して、新しいデータをセーブすると、元のデータは消えてしまいます。十分注意してください。
- SY77タイプで、01:All Data, 03:Sequencer All のデータをセーブするとき、現在選択されている1ソングだけがセーブされます。その他のソングはセーブされません。
- ESEQでセーブしたデータを、QX3 でロードしても、一部読み込めないデータがあります。また、機種によっては、データの設定値が変化する場合があります。
- 新しいデータを古いデータに上書きする場合、disk full のメッセージが表示される場合があります。
この場合は、不要なファイルを削除した後、操作をしないか、新しいディスクにデータをセーブしてください。

フォーマットディスク		DP 818	<div>FORMAT DISK818 Please insert a blank disk <div>Go</div></div>
[UTILITY] → F4 (Disk) → 04:Format Disk			
機能	ディスクをフォーマットします。		

フォーマット

- ① ディスクをドライブにセットします。
- ② **[F8]**(Go)を押します
- ③ **[+1/YES]**を押します

解 説

- フロッピーディスクをフォーマット（初期化）します。
フォーマットとは、ディスク内にデータを書き込むことができるようにする機能です。ちょうど白い紙に、データを記入するための罫線を引くような作業です。
- フォーマットを行うと、ディスク内の全てのデータは消去されます。このことを利用して、ディスクの全ファイルを消去したいときにも、このフォーマットを使うことができます。

手 順

- ▼ 「Are you sure ?」と表示されます。
- ▼ フォーマットが開始され、実行状況がパーセンテージで表示されます。「Completed !」が表示されたらフォーマットの終了です。

注 意

- カードのフォーマットとは異なり、ディスクのフォーマットは、実行すると、そのディスクの内容を全て消去してしまいます。
- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン（窓が開いている状態）になっているときは、ディスクをフォーマットすることができません。オフの状態にしてから操作してください。
- フロッピーディスクは、必ずMF2DD タイプのものを使用してください。

4. ディスクユーティリティー

バックアップディスク		DP 819	<div>BACKUP DISK819</div> <div>Disk Data Load</div> <div>SEQ data will be erased !</div> <div>Please insert SOURCE disk</div> <div>0 %</div> <div>Go</div>
[UTILITY] → (F4) (Disk) → 05:Backup Disk			
機 能	バックアップディスクを作成します。		
設 定	なし		

バックアップ

解 説

- 重要なディスクを何らかの事故で失ってしまったときに備えて、内容の全く同じ予備のディスクを作成します。この作業のことをバックアップと呼びます。

手 順

① コピー元ディスクをドライブにセットします

② **(F8)**(Go)を押します

▼ 現在本体に入っているシーケンサーのデータが失われることを示すメッセージとともに、「Are you sure ?」が表示されます。
これは、バックアップのために、シーケンサー用のメモリーを作業領域として使用するためです。

③ **[+1/YES]**を押します

▼ データの読み込みが始まります。
・ 「Please insert DUPLICATE disk」が表示されたら、手順④に進みます。

④ コピー先ディスクをドライブにセットします

⑤ **(F8)**(Go)を押します

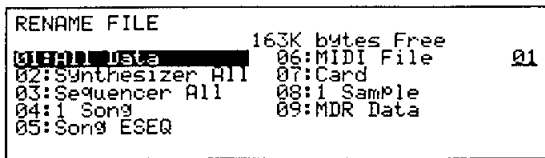
▼ データのコピーが始まり、一部のコピーが終了したところで、実行状況がパーセンテージで表示されます。
・ 「Please insert SOURCE into drive」が表示されたら、再びコピー元ディスクをセットし、**(F8)**(Go)を押します。
この操作をメッセージにしたがって繰り返します。

・ 「Completed !」が表示されたら、バックアップの完了です。

注 意

- バックアップを実行すると、その過程で、本体内のシーケンサーのデータをすべて消去してしまいます。必要に応じて、バックアップを行う前に、シーケンサーのデータをセーブしておいてください。
- バックアップを実行すると、元々コピー先のディスクに入っていたデータは全て消去されます。
- コピー先のディスクは、あらかじめフォーマット (➡ 289) されていなければなりません。
- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン（窓が開いている状態）になっているディスクをコピー先のディスクとして使うことはできません。オフの状態に切り換えてから操作してください。

4. ディスクユーティリティー

リネームファイル			
[UTILITY] → [F4] (Disk) → 06:Rename File			
機 能	ファイルの名前を変更します。		
設 定	File Name	最大 8 文字	

解 説

- すでにセーブされているファイルの名前を変更します。（文字を入力する方法について：➡基礎編：52）

手 順

- ① ディスクをドライブにセットします
- ② セーブしたときのデータ種類を選択します
- ③ ファイルを選択します
- ④ **[F8]**(Name)を押します
- ⑤ 新しいファイル名に変更します
- ⑥ **[F8]**(Go)を押します
- ⑦ **[+1/YES]**を押します

- ・番号をテンキーで入力するか、カーソルキーを使ってカーソルを移動し、**[ENTER]**を押します。

- ▼セーブされているファイルの一覧表が表示されます。
- ・1画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、**[F2]** (▼) を、前の画面を表示させるときは**[F1]** (▲) を押します。あるいは、テンキーで1～99を入力すると、その数字の画面が表示されます。

- ▼ファイル名を入力する表示に変わります。

- ▼「Are you sure ?」と表示されます。

- ▼これでファイル名の変更が完了します。

注 意

- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン（窓が開いている状態）になっているときは、ファイル名の変更はできません。オフの状態に切り換えてから操作してください。

4. ディスクユーティリティー

デリートファイル			<div>DELETE FILE</div> <div>01: MIDI Data 163K bytes Free 01</div> <div>02: Synthesizer All 06: MIDI File</div> <div>03: Sequencer All 07: Card</div> <div>04: 1 Song 08: 1 Sample</div> <div>05: Song ESEQ 09: MDR Data</div>
[UTILITY] → (F4)(Disk) → 07:Delete File			
機 能	ファイルを削除します。		
設 定	なし		

解 説

- セーブされているファイルを削除します。

手 順

① ディスクをドライブに
セットします

② セーブしたときのデー
タ種類を選択します

- ・ 番号をテンキーで入力するか、カーソルキーを使ってカーソルを移動し、**(ENTER)**を押します。

▼ セーブされているファイルの一覧が表示されます。

- ・ 1画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、**(F2)** (▼) を、前の画面を表示させるときは **(F1)** (▲) を押します。あるいは、テンキーで1～99を入力すると、その数字の画面が表示されます

③ ファイルを選択します

④ **(F8)**(Go)を押します

⑤ **[+1/YES]**を押します

▼ 「Are you sure ?」と表示されます。

▼ これでファイルが削除されます。

注 意

- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン（窓が開いている状態）になっているときは、ファイルを削除できません。
オフの状態に切り換えてから操作してください。

4. ディスクユーティリティー

ディスクセーブタイプ		DP 825
[UTILITY] → (F4) (Disk) → 08:Disk Save Type		
機 能	ディスクセーブタイプを設定します。	
設 定	Type	SY99, SY77

DISK SAVE TYPE	825
SYNTH & SEQ Data Save Type = SY99	
SY99 SY77	

解 説

- SY99のシンセデータのセーブディスクタイプを、SY99, SY77のいずれかから選択します。
- SY77タイプを選択してセーブした次のデータは、そのままSY77で使うことができます。

01:All Data	04:1 Song
02:Synthesizer All	05:Song ESEQ
03:Sequencer All	

- なお、本機でSY77のディスクをロードしたり、セーブする場合には、ボイスに関する2つの設定が次のように変換されます。

・エフェクトの設定

ロード時：SY77上でのオリジナル音に一番近い音になるように自動的に変換します。

セーブ時：エフェクトモードoff の状態になります。

・AWM2のウェーブフォームの設定

ロード時：SY77上でのオリジナル音で使用しているウェーブフォームと同じ（または近い）ウェーブフォームを使います。（このときウェーブフォーム番号は変化することがあります）

セーブ時：SY77上に、オリジナルに近いウェーブフォームがある場合は、そのウェーブフォームを使用する設定に変換します。ない場合は、65:Triのウェーブフォームを使用します。

注 意

- 「01:All Data」「02:Synth All」のデータは、SY77とSY99間の完全な互換性はありません。

5. サンプルユーティリティ

サンプルユーティリティには、サンプル（波形）を削除、コピーしたり、ディスクや外部機器とやりとりする機能などが集められています。

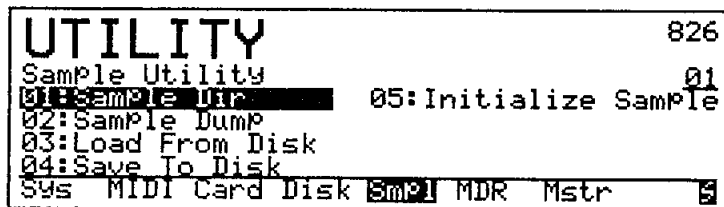
サンプルユーティリティ (SAMPLE UTILITY)			DP 826
No.	項目	内 容	
01	Sample Dir	サンプルの一覧を表示し、削除、コピーを行います。	DP 827
02	Sample Dump	ウェイブフォームまたはサンプルデータをバルクデータとして外部機器と送受信します。	DP 828
03	Load From Disk	ディスクにセーブされているサンプルデータを本体内に取り込みます。	—
04	Save to Disk	本体内のサンプルデータをディスクにセーブします。	—
05	Initialize Sample	本体内のサンプルデータを全て消去します。	—

手 順

① [UTILITY] を押します

▼ 次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティの画面が表示された場合には、**[F5]**(Smp1)を押してください。



② 機能を選択します

▼ 選択した01～05の各機能のページが表示されます。

注 意

- 新品のディスクにサンプルデータをセーブするときは、あらかじめそのディスクをフォーマットしておかなければなりません。
- サンプル波形データと MDRデータは同じ RAMを使用します。
サンプルをロードするときは、あらかじめメモリアロケート (**[F5]** 259) の機能でサンプル用に必要な容量を確保しておいてください。

5. サンプルユーティリティー

サンプルディレクトリ		OP 827	<div>SAMPLE DIRECTORY827 01: P1-C106: ?-CARD-0601 02: P1-C307: ?-CARD-07 03: P1-C408: ?-CARD-08 04: ?-CARD-0409: ?-CARD-09 05: ?-CARD-0510: ?-CARD-10 ▲▼DelCopy</div>
[UTILITY] → [F5] (Smpl) → 01:Sample Dir			
機能	サンプルの一覧を表示し、削除、コピーを行います。		
設定	なし		

解 説

- 現在本体に入っているサンプルの一覧を表示します。
- ウェーブフォームカードなどから、取り込んだプロテクト付きのサンプルには、先頭に鍵のマークが示されます。
- 1画面には10個分のサンプルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、**[F2]** (▼) を、前の画面を表示させるときは**[F1]** (▲) を押します。あるいは、テンキーで1～99を入力し、**[ENTER]**を押すと、その番号のサンプルが表示されます。

[F5](Del)

- **[F5]**(Del) は、任意のサンプルを消すときに使います。
- 消したいサンプルにカーソルを移動した後、**[F5]**(Del) を押します。続いて、**[+1/YES]**を押すと削除が実行されます。

[F8](Copy)

- **[F8]**(Copy) は、任意のサンプルを別の番号からコピーするときに使います。
- コピー先のサンプルにカーソルを移動した後、**[F8]**(Copy)を押します。続いて、コピー元にカーソルを移動した後、**[F8]**(Go)を押し、さらに**[+1/YES]**を押すと、コピーが実行されます。

注 意

- サンプルの削除、コピーを行うと、そのサンプルを使ったウェーブフォームの音が変わります。したがって、そのウェーブフォームを使ったボイスの音が変更されることになります。
- サンプルデータをデリート(Del)しても、管理データが残ります。全てを消したい場合は、サンプルイニシャライズを行ってください。

サンプルダンプ		DP 828	<div>SAMPLE DUMP828 01:Waveform01 02:Sample Go</div>
[UTILITY] → (F5)(Smpl) → 02:Sample Dump			
機能	ウェーブフォームまたはサンプルデータをバルクデータとして外部機器と送受信します。		
設定	なし		

解 説

- 現在本体に入っているウェーブフォームデータをバルクデータとして外部機器に送信したり、サンプルデータを外部機器と送受信します。
- ウェーブフォームのバルクデータを外部機器に送信するときは、01:Waveform にカーソルを移動し、**(F8)**(Go)を押します。
- サンプルダンプデータを送信する場合は、02:Sample にカーソルを移動して、**(F8)**(Dir) を押し、出力するサンプルにカーソルを合わせ、**(F8)**(Out) を押します。
- サンプルダンプデータを受信する場合は、02:Sample にカーソルを移動して、**(F8)**(Dir) を押し、受信するサンプル番号にカーソルを合わせ、**(F6)**(Rqst)を押します。

注 意

- ウェーブフォーム、サンプルのバルクデータをやりとりするときは、外部機器とデバイスナンバー (➡ 267) が一致していなければなりません。
- ウェーブフォームカードやディスクから読み込んだサンプルにプロテクトがかかっている場合は、バルクデータを送信することはできません。
- ループポイントをいくつも設定できる機種から、サンプルダンプを受信した場合、本機内で有効になるのは、1つのループポイントだけです。どのループポイントが有効になるかは、送信側の機器の設定によって変化します。

MIDIサンプルダンプについて

- ・MIDIサンプルダンプは、サンプリングキーボードやサンプリング音源モジュールなどの間でサンプルデータをやりとりするためにMIDIで用意された規格です。
- ・このMIDIサンプルダンプの機能を持つサンプリングマシンがあれば、本機のインターナルウェイブフォームとして、任意の波形を取り込むことができます。
- ・ただし、MIDIサンプルダンプをやりとりする場合には、相方向のMIDIケーブルが接続されていることが必要な場合があります。

[F6](Rqst)の使い方

画面上の任意の番号にカーソルを移動し、[F6](Rqst)を押すと、本機は接続された外部機器にその番号のサンプルを送信するように要求します。

外部機器からその番号のサンプル信号が送信されれば、本機はそれを、カーソルのある位置のサンプルデータとして取り込みます。

もし、外部機器からその番号以外のサンプル信号が送信された場合には、本機はその番号と同じ番号のところへ、サンプルデータを取り込みます。ただし、その番号にすでに別のデータが入っている場合には、その番号以降の空いている位置にそのサンプルデータを取り込みます。

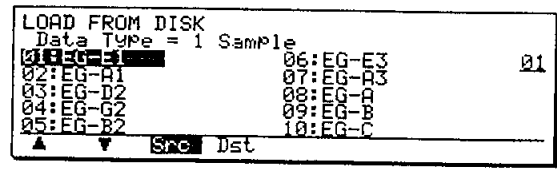
なお、サンプルダンプを行うときには、外部機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

サンプルダンプ、サンプルダンプスタンダードの扱いについて

サンプルのダンプデータには、「サンプルダンプ」と「サンプルダンプスタンダード」の2種類の形式があります。

「サンプルダンプスタンダード」に含まれないボリュームやオリジナルキー、発音音域、サンプルネームなどの本機独自のデータのダンプデータが、「サンプルダンプ」です。

本機では、どちらのデータでも、外部機器に合わせて受信、送信できるようになっています。

ロードディスク			
[UTILITY] → [F5] (Smpl) → 03:Load From Disk			
機 能	ディスクにセーブされているサンプルデータを本体内に取り込みます。		
設 定	なし		

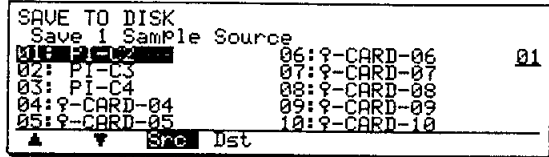
解 説

- ディスクにセーブされているサンプルを、本体内にロードします。
- この操作で、TX16W（サンプリング音源モジュール）用などのサンプルデータを取り込むことができます。

手 順

- | | |
|--|---|
| <p>① ディスクをドライブに
セットします</p> <p>② 03:Load From Disk を
選択します</p> <p>③ ロードするファイルを選
択します</p> <p>④ ロード位置を指定しま
す</p> <p>⑤ [+1/YES]を押します</p> | <p>▼ ディスク中のサンプルデータファイルの一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1 画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、[F2] (▼) を、前の画面を表示させるときは[F1] (▲) を押します。あるいは、テンキーで1 ～99を入力し、[ENTER]を押すと、その番号の画面が表示されます。 <p>・ ロードしたいサンプルデータにカーソルを移動し、[F4] (Dst) を押します。</p> <p>▼ 現在本体内に入っているサンプルデータの一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ロードする位置（本体内のサンプル番号）にカーソルを移動し、[F8] (Go)を押します。 <p>▼ ロードが実行されます。</p> |
|--|---|

5. サンプルユーティリティー

セーブディスク			
[UTILITY] → (F5)(Smpl) → 04:Save To Disk			
機 能	本体内のサンプルデータをディスクにセーブします。		
設 定	なし		

解 説

- 本体内のサンプルデータをディスクにセーブします。
- 増設メモリーボードを装着している場合は、1枚のディスクにデータが入りきらないことがあります。
この場合は、メッセージにしたがって、ディスクのセット、イジェクトを行ってください。

手 順

- | | |
|--|---|
| <p>① ディスクをドライブにセットします</p> <p>② 04:Save To Disk を選択します</p> <p>③ セーブするサンプルを選択します</p> <p>④ セーブ位置を指定します</p> <p>⑤ [+1/YES]を押します</p> | <p>▼ 本体内のサンプルデータの一覧が表示されます。</p> <p>・ 1画面には10個分のファイルしか表示されません。次の画面を表示させるときは、(F2) (▼) を、前の画面を表示させるときは(F1) (▲) を押します。あるいは、テンキーで1～99を入力し、(ENTER)を押すと、その番号の画面が表示されます。</p> <p>・ セーブしたいサンプルデータにカーソルを移動し、(F4) (Dst) を押します。</p> <p>▼ ディスク内に入っているサンプルデータの一覧が表示されます。</p> <p>・ セーブするファイル番号にカーソルを移動し、(F8) (Go)を押します。</p> <p>▼ セーブが実行されます。</p> |
|--|---|


注 意

- プロテクトされている（サンプル名に鍵のマークの付いている）サンプルをディスクにセーブすることはできません。
- セーブするディスクは、あらかじめフォーマット（☐ 289）されていなければなりません。
- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン（窓が開いている状態）になっているときは、データをセーブすることができません。
- すでにデータのセーブされている番地を選択して、新しいデータをセーブすると、元のデータは消えてしまいます。十分注意してください。

5. サンプルユーティリティー

イニシャライズサンプル		<div>INITIALIZE SAMPLE</div> <div>ARE YOU SURE ?</div> <div>(Yes or No)</div>	
[UTILITY] → F5 (Smpl)→ 05:Initialize Sample			
機 能	本体内のサンプルデータを全て消去します。		
設 定	なし		

① [+1/YES]を押します

解 説
■ 本体内（増設メモリーボードも含む）のサンプルデータを全て消去します。
手 順
▼ 「Are you sure ?」が表示されます。
▼ イニシャライズが実行されます。
注 意
■ この操作では、メモリアロケート（  259）で設定されているサンプル領域のみをイニシャライズします。 MDR 領域のデータは、そのまま残ります。

6. MDRユーティリティ

MDR機能は、外部機器から送信されたMIDIデータ（バルクダンプデータやサンプルダンプデータなど）を本体RAMに記憶し、任意に送信する機能です。

また、受信したデータをディスクにセーブしたり、ロードすることもできます。

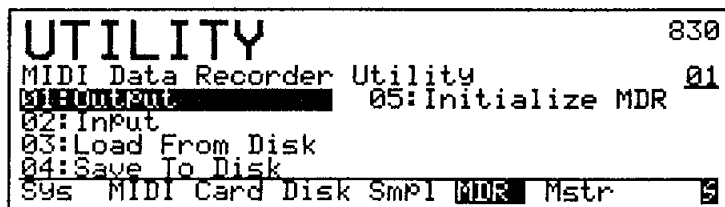
MDRユーティリティ(MDR UTILITY)			DP 830
No.	項目	内 容	
01	Output	本体内の MDRデータを外部機器に送信します。	—
02	Input	外部機器から送信されたデータを本体内に取り込みます。	—
03	Load From Disk	ディスクにセーブされている MDRデータを本体内に取り込みます。	—
04	Save to Disk	本体内の MDRデータをディスクにセーブします。	—
05	Initialize MDR	本体内の MDRデータを全て消去します。	—

手 順

① [UTILITY] を押します

▼次のような表示に変わります。

- 他のユーティリティの画面が表示された場合には、[F6](MDR)を押してください。



② 機能を選択します

▼選択した01～05の各機能のページが表示されます。

注 意

- 新品のディスクにMDRデータをセーブするときは、あらかじめそのディスクをフォーマットしておかなければなりません。
- サンプル波形データとMDRデータは同じRAMを使用します。
MDRを使うときは、あらかじめメモリーアロケート（▶ 259）の機能でMDR用に必要な容量を確保しておいてください。

6. MDRユーティリティー

アウトプット MDRデータ			<div>MDR OUTPUT</div> <table><tr><th>Data Name</th><th>Block</th><th>int</th><th>Send</th><th>From</th><th>To</th></tr><tr><td>01: Moon</td><td>5</td><td>0</td><td>ALL</td><td></td><td>01</td></tr><tr><td>02: Sun</td><td>1</td><td>0</td><td>ALL</td><td></td><td></td></tr><tr><td>03: -----</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td></tr><tr><td>04: -----</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td></tr></table> <div>▲ ▼ Go</div>	Data Name	Block	int	Send	From	To	01: Moon	5	0	ALL		01	02: Sun	1	0	ALL			03: -----	---	---	---	---	---	04: -----	---	---	---	---	---
Data Name	Block	int		Send	From	To																											
01: Moon	5	0	ALL		01																												
02: Sun	1	0	ALL																														
03: -----	---	---	---	---	---																												
04: -----	---	---	---	---	---																												
[UTILITY] → (F6)(MDR) → 01:Output																																	
機能	本体内の MDRデータを外部機器に送信します。																																
設定	Int Time	0, 1 ~ 10																															
	Send	All, Select																															

解 説

- Input または Load From Disk の機能で、本体内に取り込まれたMDRデータを外部機器に送信します。
- Int Time（送信間隔時間）は、100ms ~ 1000ms（1~10）の範囲内で設定することができます。
- MDR データの任意のブロックだけを送信することができます。

手 順

- ① 01:Output を選択します
- ② データを選択します
- ③ Int Time, Send Type を設定します
- ④ 外部機器を用意します
- ⑤ **[F8]**(Go)を押します
- ⑥ [+1/YES]を押します

▼ 画面に現在本体内に取り込まれている MDRデータの一覧が表示されます。

- ・送信する MDRを選択します。
- ・**[F1]** (▲)、**[F2]** (▼) でデータ一覧を上下させることができます。

- ・Int Time（送信間隔時間）を外部機器に合わせて設定します。
- ・Sendでは、次のいずれかを選択します。
 - ・ALL …… 全ブロックデータの送信
 - ・Select … 任意ブロックのみの送信
 これを選択した場合は、From, Toの項目で送信開始ブロックと、終了ブロックを指定します。

- ・外部機器をデータ受信状態にセッ'します。

▼ 「Are you sure ?」とメッセージが表示されます。

- ▼ MDRデータの送信が実行されます。
 - ・MDRデータの中にサンプルダンプデータが含まれている場合はオープンループの手順にしたがってサンプルダンプが自動出力されます。

インプット MDRデータ		
[UTILITY] → [F6] (MDR) → 02:Input		
機 能	外部機器から送信されたデータを本体内に取り込みます。	
設 定	なし	

MDR INPUT				01
Data Name	Blk Cnt	Size(KBYTE)		
01: Moon	5	5		
02: Sun	1	5		
03: - NEW - *	---	---		
04: - NEW - *	---	---		
▲ ▼	Del	Name	Go	

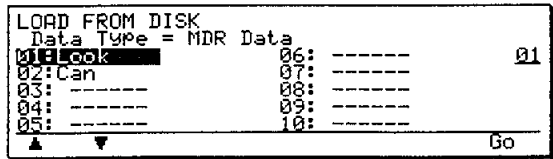
解 説

- 外部機器から送信されたバルクデータを本体内に取り込みます。
- また、任意の MDRデータを選択し、**[F5]**(Del)、**[+1/YES]**を押すことでそのデータを削除することもできます。

手 順

- | | |
|---|---|
| <p>① 02:Inputを選択します</p> <p>② データを選択します</p> <p>③ [F7](Name)を押します</p> <p>④ データ名を入力します</p> <p>⑤ [F8](Go)を押します</p> <p>⑥ [+1/YES]を押します</p> <p>⑦ 外部機器からデータを送信します</p> <p>⑧ [EXIT]を押します</p> | <p>▼ 画面に現在本体内に取り込まれている MDRデータの一覧が表示されます。</p> <p>・ 取り込むデータを記憶する位置を選択します。</p> <p>・ 「- NEW -」は、まだ何もデータの入っていないことを示します。</p> <p>・ [F1] (▲)、[F2] (▼) でデータ一覧を上下させることができます。</p> <p>▼ データ名を入力する表示に変わります。</p> <p>・ データ名は8文字まで使うことができます。
(文字を入力する方法について: ➡基礎編: 52)</p> <p>▼ 「Are you sure ?」とメッセージが表示されます。</p> <p>▼ MDRデータの受信待ちの状態になります。</p> <p>▼ 外部機器からデータが送られるとデータ受信を開始します。</p> <p>・ 送信が終了したら次の手順に進みます。</p> <p>▼ 「Completed」を表示します。
これで MDRデータの受信は完了です。</p> |
|---|---|

6. MDRユーティリティー

ロードディスク			
[UTILITY] → [F6] (MDR) → 03:Load From Disk			
機 能	ディスクにセーブされている MDRデータを本体内に取り込みます。		
設 定	なし		

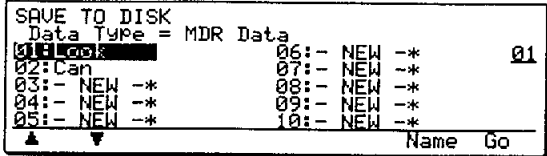
解 説

- Save To Diskの機能を使って、ディスクにセーブしたデータを本体に取り込みます。

手 順

- ① データを選択します
- ② **[F6]**(Go)を押します
- ③ [+1/YES]を押します

- ロードする MDRデータを選択します。
- ▼ 「Are you sure ?」とメッセージが表示されます。
- ▼ ロードが実行されます。

セーブディスク			
[UTILITY] → [F6] (MDR) → 04:Save To Disk			
機 能	本体内の MDRデータをディスクにセーブします。		
設 定	なし		

解 説

- 本体内に取り込まれている全 MDRデータをディスクにセーブします。

手 順

- ① ファイルを選択します
 - ・セーブするファイルを選択します。
 - ・「- NEW -*」は、まだ何もデータの入っていないことを示します。
 - ・すでに取り込まれているデータ名を選択すると、古いデータは新しいデータで上書きされます。
 - ・**[F1]** (▲)、**[F2]** (▼) でデータ一覧を上下させることができます。
- ② **[F7]**(Name)を押します
 - ▼ ファイル名を入力する表示に変わります。
- ③ ファイル名を入力します
 - ・ファイル名は8文字まで使うことができます。
(文字を入力する方法について：➡基礎編：52)
- ④ **[F8]**(Go)を押します
 - ▼ 「Are you sure ?」とメッセージが表示されます。
- ⑥ **[+1/YES]**を押します
 - ▼ セーブが実行されます。

注 意

- セーブするディスクは、あらかじめフォーマット (➡ 289) されていなければなりません。
- ディスク左下には、ライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチがオン (窓が開いている状態) になっているときは、データをセーブすることができません。
- すでにデータのセーブされている番地を選択して、新しいデータをセーブすると、元のデータは消えてしまいます。十分注意してください。

6. MDRユーティリティー

イニシャライズ MDR			<div>INITIALIZE MDR</div> <div>ARE YOU SURE ?</div> <div>(Yes or No)</div>
[UTILITY] → F6 (MDR) → 05:Initialize MDR			
機 能	本体内の MDRデータを全て消去します。		
設 定	なし		


解 説

- 本体内に取り込まれている全 MDRデータを消去します。

手 順

- ▼ 「Are you sure ?」が表示されます。
- ▼ 全 MDRデータの消去が実行されます。

注 意

- この操作では、メモリーアロケート ( 259) で設定されているMDR領域のみをイニシャライズします。
サンプル領域のデータは、そのまま残ります。

① [+I/YES]を押します

7. マスターコントロール

マスターコントロールでは、本機をマスターキーボードとして使うことができるように、さまざまな設定を行います。

マスターコントロール (MASTER CONTROL)			DP 831
No.	項目	内 容	
01	Controller Select	外部MIDI機器をコントロールする設定を行います。	DP 832
02	Transmit Filter	MIDIの各チャンネルの送信データにフィルターをかけます。	DP 837

手 順

① [UTILITY] を押します

▼ 次のような表示に変わります。

- ・他のユーティリティの画面が表示された場合には、**[F7]**(Mstr)を押してください。

UTILITY	831
Master Control	01
01: Controller Select	
02: Transmit Filter	
Sys MIDI Card Disk SmPI MDR	Mstr 5

② 機能を選択します

▼ 選択した01～02の各機能のページが表示されます。

7. マスターコントロール

コントローラーセレクト		DP 832
[UTILITY] → [F7] (Mstr) → 01:Controller Select		
機能	外部MIDI機器をコントロールする設定を行います。	
設定	コントロールパターン	01 ~ 08

CONTROLLER SELECT		832
1:Normal 1Vc	5:Majr7 chrd	1
2:Normal 4Vc	6:Minr7 chrd	
3:Key split	7:7th chrd	
4:Velo split	8:7sus4 chrd	
Strt Cont Stop		Mute Solo

解 説

- 本機をマスターキーボードとして、どのチャンネルで、どのようにコントロールするかは、8種類のパターンをあらかじめ作っておくことができます。
この機能では、この8種類のパターン（01～08）の選択、作成（**[F8]** (Edit)機能を使用）を行います。
- 各コントロールパターンでは、最大4チャンネルのMIDIチャンネルを使うことができます。
- ボイスプレイモード、マルチプレイモードの**[F6]** (Mstr)を押すと、直接この画面に変わります。
元のプレイモードに戻るときは、[VOICE] または[MULTI] を押します。
- ご購入の時点では、次の8種類のコントロールパターンが設定されています。
エディットを行う前に、ディスクに保存しておくことをお勧めします。
なお、このコントロールパターンのデータは、シンセサイザーのセットアップデータに含まれます。

- | | | |
|--------------|----|------------------------|
| 1:Normal 1Vc | .. | 通常の1チャンネルのみの出力 |
| 2:Normal 4Vc | .. | 1～4チャンネルの同時出力 |
| 3:Key split | .. | 音程C3を境に、2チャンネルずつ出力 |
| 4:Velo split | .. | ベロシティ63を境に、2チャンネルずつ出力 |
| 5:Majr7 chrd | .. | メジャーセブンスのコードとなるトランスポーズ |
| 6:Minr7 chrd | .. | マイナーセブンスのコードとなるトランスポーズ |
| 7:7th chrd | .. | セブンスのコードとなるトランスポーズ |
| 8:7sus4 chrd | .. | セブンスサスフォーコードとなるトランスポーズ |

セレクト

- カーソルを01～08のいずれかのコントロールパターンに移動し、**[ENTER]**を押すと、選択したパターンで外部MIDI機器をコントロールする状態に変わります。
- 選択したパターンに MDR番号が指定されている場合は、**[ENTER]**を押すと同時にその MDRデータが外部機器に送信されます。
- **[ENTER]**を押すと、通常のトランスミットチャンネルの設定は、無効となります。
- [1] ～[16]のランプで、現在コントロールしているMIDIチャンネルが表示されます。（この表示は、プレイモードに戻り、ボイスやマルチを切り換えると消えます）

解除

- **[ENTER]**キーを押すと、選択されているコントロールパターンが解除されます。
この操作で、コントロールパターンを解除するまでは、ボイスプレイモード、マルチプレイモードなどに移っても、マスターコントロールの設定は有効です。

[F1] (Strt)

- 外部機器にシーケンススタート信号を送信します。

[F2] (Cont)

- 外部機器にシーケンスコンティニュー信号を送信します。

[F3] (Stop)

- 外部機器にシーケンスストップ信号を送信します。

[F6] (Mute)

- 任意のチャンネルのコントロールをミュートします。
- **[F6]** (Mute)を押すと、コントロールしているチャンネルを示す [1]～[16]のランプのうち、いくつかのランプが点滅します。点滅している [1]～[16]のランプの中から、任意のチャンネルのボタンを押すと、そのチャンネルのミュートが解除されます。もう一度同じボタンを押すと、再びミュートされます。

[F7] (Solo)

- 任意のチャンネルだけをコントロールするときに使います。
- **[F7]** (Solo)を押すと、コントロールしているチャンネルを示す [1]～[16]のランプが点滅します。点滅している [1]～[16]のランプの中から、任意のチャンネルのボタンを押すと、そのチャンネルのみのコントロールを行う状態になります。

7. マスターコントロール

[F8] (Edit)

- 選択されているコントロールのパターンを作成します。

1:Normal 1Vc=-----833									
MIDI-1 ON					MIDI-2 OFF				
Tch.	Vel.	Aft			1	1	1	2	1
Bank	Sel.	PC#			off	off	off	off	off
Vol.	MDR.	Xps			off	off	+ 0	off	off
Note	Limit				C -2	G 8		C -2	G 8
Vel.	Limit				1	127		1	127
1-2	3-4	Init Name Mute Solo Dir							

- パターンは、01～08の8種類を作成しておくことができます。
- 設定には次の項目があります。

・ボイス、マルチの選択（一番上の行）

コントロールパターンを選択したときに、自動的に任意のボイス、マルチに切り換える設定になっているとき、そのボイス、マルチを表示します。

この設定は、[F8](Dir) を使って行います。

・MIDI-1～MIDI-4の設定

コントロールする各チャンネルの細かい設定を行います。

MIDI1,2 とMIDI 3,4の切り換えは、[F1](1-2) または[F2](3-4) を使って行います。

この設定に関しては次ページで説明します。

・[F4] (Init)

パターンの設定を初期化します。

初期化した状態は、演奏データを1～4のチャンネルでそのまま送信する状態です。

「Are you sure ?」のメッセージの後に、[+1/YES]を押すと、イニシャライズが実行されます。

・[F5] (Name)

パターンに10文字までの名前を付けます。（文字を入力する方法について：➡基礎編：52）

・[F6] (Mute)、[F7] (Solo)

任意のチャンネルのミュート、ソロ送信を行います。（➡311）

・[F8] (Dir)

1～8のコントロールパターンをセレクトしたとき、自動的にボイスやマルチを切り換えるための設定を行います。

[F8](Dir)を押すと、ボイス一覧（またはマルチ一覧）が表示されます。[F3](Voic)、[F4](Mult)で、一覧を切り換え、使いたいボイスまたはマルチを選択します。

さらに、[F1](On)を押すと、自動切換が有効となります。

[F2](Off)を押すと、自動切換は無効となります。

[EXIT]を押すと、元の表示に戻ります。

■ MIDI-1～MIDI-4の設定

	MIDI-1 ON		
Tch. Vel. Aft	1	1	1
Bank Sel. PC#	off	off	
Vol. MDR Xps	off	off	+ 0
Note Limit	C -2	G 8	
Vel Limit	1	127	

■ MIDI-1～MIDI-4 ON/OFF

その下の設定を有効にするか、無効にするかの選択です。

例えば、ひとつのチャンネルだけをコントロールする場合は、MIDI-1をONに、MIDI-2, 3, 4をOFF に設定します。

■ Tch.

トランスミットチャンネルの選択です。 1～16の中から選択します。

■ Vel.

ベロシティーのカーブの設定です。

1:Normal 2:Soft 3:Wide 4:Hard の中から選択します。

■ Aft.

アフタータッチのカーブの設定です。

1:Normal 2:Soft 3:Wide 4:Hard の中から選択します。

■ Bank Sel.

パターン切り換え時に、自動的にバンクセレクト信号を送信させたい場合に任意の数値を指定します。

off を選択しておくと、バンクセレクト信号を送信しません。

■ PC#

パターン切り換え時に、自動的にプログラムチェンジ信号を送信させたい場合に任意の数値を指定します。

off を選択しておくと、プログラムチェンジ信号を送信しません。

■ Vol.

パターン切り換え時に、自動的に本体および外部機器のボリュームを変更したい場合に任意の数値を指定します。

off を選択しておくと、ボリュームを変更しません。

■ MDR

パターン切り換え時に、自動的に MDRのデータを送信したい場合任意の MDRデータ番号を指定します。

off を選択しておくと送信しません。

- Xps

送信するノートをシフトさせたい場合に、-64～+63 の範囲で、変化幅を半音単位で指定します。

- Note Limit

送信するノートの範囲を指定します。

指定した範囲外の鍵盤を弾いたときには、何もデータが送信されません。

この位置にカーソルがあるときは、**[F3]**(Kbd) が表示されます。

[F3](Kbd) を押し、任意の鍵盤を押すと、そのノートがカーソル位置に入力されます。

- Vel Limit

送信するベロシティーの範囲を指定します。

指定した範囲外のベロシティーで鍵盤を弾いたときには、何もデータが送信されません。

注 意

- マスターコントロールで外部機器をコントロールし、同時に本機の音源も鳴らす場合、あまりに使用するエレメントやMIDIチャンネルの数が多いときは、若干発音が遅れる場合があります。

トランスミットフィルター		<table><tr><th colspan="16">TRANSMIT FILTER</th><th>837</th></tr><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th></tr><tr><td>Prg Cng</td><td>■</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr><tr><td>Cont Cng</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr><tr><td>P Bender</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr><tr><td>Sustain</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr><tr><td>Aft TUCH</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr><tr><td>M Volume</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td><td>.</td></tr></table>	TRANSMIT FILTER																837		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	Prg Cng	■	Cont Cng	P Bender	Sustain	Aft TUCH	M Volume
TRANSMIT FILTER																837																																																																																																																										
	1		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																																																																																																																									
Prg Cng	■																																																																																																																										
Cont Cng																																																																																																																										
P Bender																																																																																																																										
Sustain																																																																																																																										
Aft TUCH																																																																																																																										
M Volume																																																																																																																										
[UTILITY] → F7 (Mstr)→ 02:Trasmit Filter																																																																																																																																										
機 能	MIDIの各チャンネルの送信データにフィルターをかけます。																																																																																																																																									
設 定	01～16の各チャンネルに関して設定																																																																																																																																									

解 説

- 任意のパターンで外部MIDI機器をコントロールするときに、特定のデータに関してフィルターをかけます。
- この設定は、通常の状態（マスターキーボードとして使わない状態）のMIDI出力には関係しません。
- フィルターは、次の種類があります。各フィルターのオン／オフを01～16の各チャンネルに対して設定します。
「×」がフィルターオンの状態を示します。

- ・ Prg Cng プログラムチェンジデータ
- ・ Cont Cng コントロールチェンジデータ
- ・ P Bender ピッチベンドデータ
- ・ Sustain サステーンペダルデータ
- ・ Aft Tuch アフタータッチデータ
- ・ M Volume メインボリュームデータ

